



## 慶應義塾大学ビジネス・スクール

# 二世経営者 吉田英樹の苦闘

## 1. インタビューにあたって

5

手渡された分厚くずっしりとしたカタログには扱い商品数1万3000点の医療機器アイテムが整然と並んでいた。1000 ページ近いそのカタログの重みを感じつつ、2001年11月、ケース・ライターは吉田英樹氏に対してインタビューを行った。

10

今年30歳になった吉田氏は、大正8年創業以来、現在にいたるまで吉田家3代の経営が続いている老舗医療機器専門商社 松吉医科器械株式会社（以下、松吉）の4代目にあたる、いわゆる二世経営者である。1997年に同社に入社し、現職の肩書きは常務取締役である。松吉は、主に医療機器を2次卸問屋に卸す1次卸であり社員数約100名、年商は約80億円である。

15

今春、急性胃潰瘍で入院し何があったのかと周囲を心配させた吉田氏は、松吉に入社して今年で4年目になる。企業の二世経営者として会社のリストラクチャリングに取り組み奮闘しているという話を聞いたケースライターは、それが一体どういうものであったのかに関心を持ちインタビューを申し込んだ。

20

以下、本ケースは吉田氏とのインタビューを編集・再現する形で展開する。

---

本ケースは慶應義塾大学大学院経営管理研究科高木晴夫教授の指導の下に、博士課程13期生の八木陽一郎が作成した。本ケースは教材として準備されたものであり、特定の経営状況の巧拙を評価するものではない。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール(〒223-8523 神奈川県横浜市港北区日吉本町2丁目1番1号、電話 045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp)。また、注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/> 慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。

Copyright© 高木晴夫、八木陽一郎（2005年4月作成）